

春の沈じんちようげ丁花

秋の金きんもくせい木犀

どこからか漂ってくる香り

突然子どもの頃の記憶よみがえが甦る

おばあちゃんの家の庭

無邪気だったあの頃

心の奥底に失われずに残っていた記憶

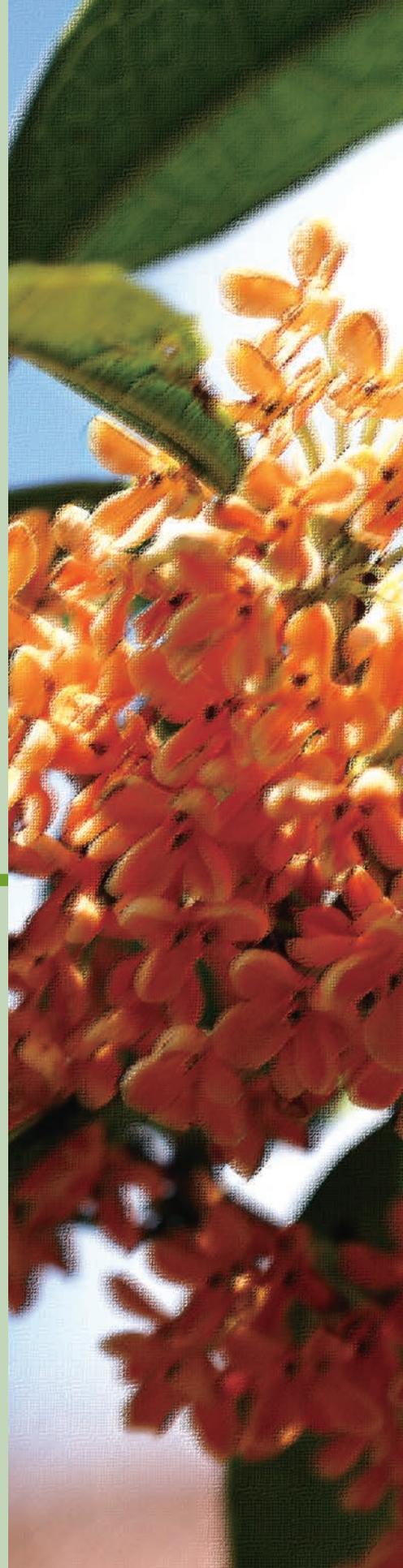
あの頃の自分が今を支えてくれる

また訪ねていこう

また頑張れる

なつかしい記憶をたどってみませんか

Memory



香りはタイムマシン。

甦る記憶

香りと記憶

プルースト効果

香りで突然過去の記憶が甦る作用を「プルースト効果」と呼ぶ

『失われた時を求めて』は、マルセル・プルーストによる長編小説。1913年から1927年までかかって刊行された。ジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』などとともに、20世紀を代表する小説の一つと称されている。

物語は、ふと口にした紅茶に浸したマドレーヌの味から、幼少期に家族そろって夏の休暇を過ごしたコンブレの町全体が自らの記憶のうちに甦ってくることを契機に、展開していく。そ

の当時暮らしていた家が面していた、スワン家とゲルマント家という2つの家族との関わりの思い出から始まり、自らの生きてきた歴史を記憶の中で織り上げていくものである。

第一次世界大戦前後の都市が繁栄した時期、ベル・エポックの世相風俗を描くとともに、社交界の人びとの見栄っ張りや貴族趣味的なスノビズム（俗物根性）を徹底的に描いた作品でもある。





生活の香り

私たちの日常生活には香りが満ち溢れていきます。良い香りだな、嫌な香りだな…、でもすぐに忘れてしまうことが多い。その中で記憶が甦る香りがあります。

人とすれ違った時、「この香りは昔親しかつた人の香り…」とか、花

や食べ物の香りや、「子どもの頃の思い出…」なんてことはありませんか。

記憶の甦り

昔嗅いだことのある香りを再び嗅いで、その時の記憶が鮮明に思い出されることつて、普通の生活の中でも意外と起こりやすいことだと思えるのですが、ここに面白い過去の事例があります。

記憶喪失になった少年が記憶を取り戻した事例なのですが、これによつて、香りと記憶の面白い関連を証明することができます。

交通事故で記憶喪失になった少年は、親友の名前や親すらも思い出せないことが続き、10年近く記憶を回復することがありませんでした。

しかし、ある日突然に記憶の一部を取り戻すことができたのです。そ

のきつかけが、香りと記憶の強い関係を指し示すものでした。

それは、街で塗装作業のシンナーの香りを嗅いだ時に起こったのです。塗装の香りから彼が思い出したのはプラモデル、そしてそれを作っている部屋。さらに友だちの顔と連鎖的に思い出してゆき、どんな治療をしても思い出せなかつた記憶が、香りによつて甦ったということがあつたそうです。

香りの力

これを、心理学の専門用語でブルースト効果といいます。

この香りの作用は、私たちも身近に感じる事が多くあると思います。懐かしい香りを嗅いだ時、その時の思い出が甦ってくることはありませんか？ そんな香りの力をもっと見てゆくことにしましょう。

季節が香る

春

—石^いばし^わる^{たる}垂^み水^みの上^のの^さわ^らび^の
萌^もえ^も出^でづ^るる^る春^{はる}に^にり^りに^にけ^ける^るか^もも
(『万葉集』)

萌^もえ^も出^でづ^るる^る季^き節^{せつ}。

桜^{さくら}の^の香^かり^り—古^{いにしへ}より^{より}愛^{あい}さ^され^れた^た花^{はな}。し^しか^かし^し、^{はな}見^み
で^でよ^よく^く見^みる^る。〃染^{そめい}井^い吉^{よしの}野^の〃の^の歴^{れき}史^しは^は浅^あい^い。

私^{わたし}だ^だけ^けの^の花^{はな}見^みス^すポ^ぽット^と。花^{はな}の^の香^かり^りを^を独^{ひとり}り^り占^おめ^め。
元^{もと}気^きに^にな^なっ^つて^て行^いこう^う。

弥^や生^{よい}—ま^まだ^だ名^なば^ばか^かり^りの^の春^{はる}。冬^{ふゆ}が^がま^まだ^だ頑^{がん}張^{じやう}つ^つて^てい^いる^る

—な^なご^ごり^り雪^{ゆき}の^の季^き節^{せつ}。

寒^{かん}々^ずと^とし^した^た山^{やま}に^に、春^{はる}を^を告^つげ^げる^る花^{はな}—マン^{マン}サク^{サク}(満^{まん}作^{さく} マン^{マン}
サク^{サク}科^かの^の落^{らく}葉^{えつ}小^{せう}高^{こう}木^{ぼく})。春^{はる}を^を告^つげ^げる^るよ^よう^うに^に「ま^まず^ず咲^さく^く」と^と
こ^ころ^ろか^から^ら名^なづ^づけ^けら^られ^れた^たと^とい^いう^う説^{せつ}が^があ^ある^る。



木々が青々と茂り、ポカポカ陽気となる。

— 春眠暁を覚えず —

朝も眠いが昼も眠い…

(-_-)zzz

春しゅん愁しゆう

— ふたたび春のはじまる時、

もう梅の田舎の夕日の色や

暫しばしを照らす谷間の宵よいの明星に

遠く来た人生とおのが青春を惜しむということ、

これをしも また一つの春愁といふべきであろうか。

(尾崎喜八)



薫風くんぷう—いのちが躍動していく季節。
春は駆け足で過ぎ、いきなり初夏の
ごとき暑さがやってくる。

梅雨

梅雨^{つゆ}。

春でも夏でもない季節。
四季には入らないけど、梅雨も立派な季節だと思う。
じめじめした季節。
湿った香り。



梅干を干す時期でもある。

— 酸っぱいにおい —

思い出すだけで唾液が…

最近は、スコールのような雨が多くなつた。

しとしとと長雨が続く梅雨には、紫陽花あじさいが似合う。

— 梅雨の晴れ間 —
庭に広がる洗たく物の花？
太陽をあびて、暖かい香りがする。



夏

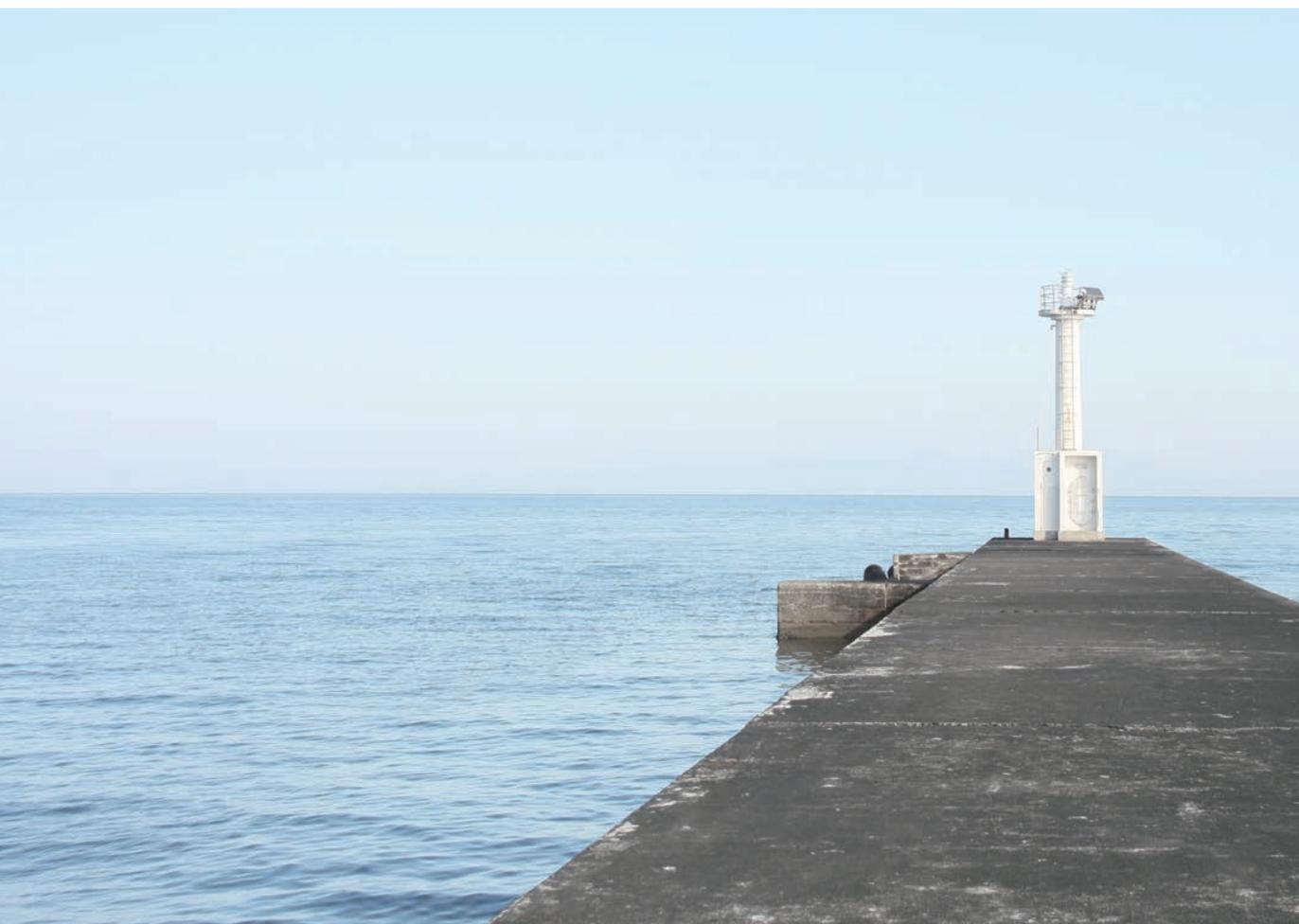
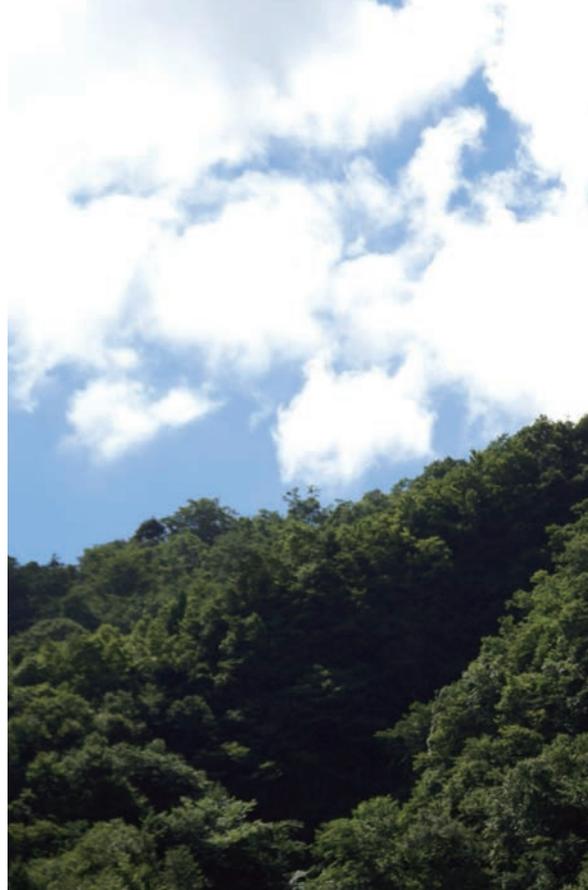
照りつける太陽。アスファルトは焼けつき、
土も焼けつく。

突然風が起こる。土埃つちぼこりの香り。

雷鳴。

ザーッとやってくる雨。

夕立だ。いやゲリラ雷雨？





いのちを奪う戦争。
如来さんが一番泣いておられる
でしょうね——長男が戦死され
た女性が語る。



海——潮の香り。
開放的になれる海。
目の前に広がる海。
この海は世界中の海と
つながっている。

盆踊り
暑さを忘れて踊る—
出店^{でみせ}から食欲をそそる香り。
たこ焼き、イカ焼き、綿菓子…
夏もあとわずか…いやいや最近の夏は
結構長い
(;-;-)

初秋

厳しい残暑。でも秋は確実にきている。
稲穂、夕空。

風の香りも変わってきた。

―風の音にぞおどろかれぬる―

いやいや―風の香りにぞおどろかれぬる―



晩秋

冬へとバトントンタッチする季節。
稲刈りをした後の田んぼの香り。
秋刀魚さんまを焼く香り。
いつ食べたっけ？
記憶に残る松茸まつたけの香り。柚子ゆずの香り。
食欲が増す季節。



冬

北海道に住む友人が言った。
風の香りで、「あつ雪が来る」って
わかるんだと。
人間の嗅覚きゆうかくもすごい。でもやっぱり
犬には負けるか
(^o^)

鍋の季節。

温もりを求める季節。

蓋をあけると立ち上がる湯気。

水炊き、寄せ鍋、ちゃんこ鍋、も

つ鍋、かき鍋、石狩鍋、キムチ鍋、

すき焼き、しゃぶしゃぶ、トマト鍋、

ぎょうざ鍋…

おでんもうまい。

おでんも、地域によってダシと具

がさまざま。

街の風景が年の瀬を教えてくれる。

— ともかくも あなた任せの

としの暮れ

(小林一茶『おらが春』)

「あなた」とは阿弥陀如来のこと。
いつも阿弥陀如来のお慈悲に抱か
れている安心感がある。





除夜の鐘。

元旦。

一年が終わり一年が始まる。

—^は這え笑え 二つになるぞ 今朝^{けさ}からは

(小林一茶『七番日記』)

「今朝」は元旦

昔はみんな元旦に誕生日を迎えた。

そんなこんなで春を待つ。

どの季節が好きですか？

どんな季節の香りの思い出を持っていますか？

好きな季節嫌いな季節。楽しい思い出、嫌な思い出。

いろんなことを積み重ねて、我が人生となる。



香

こころのお見舞い

目次

● 香りはタイムマシン。

2 …… 香りと記憶

プルースト効果

4 …… 季節が香る

● インタビュー



16 …… 落語 生活の匂いから生まれた
言葉と仕草の芸

笑福亭松喬

42 …… 緩和ケアの現場から

あなたに聞いてほしかった

長倉伯博



● 聞き味わう香りの世界

26 …… 香りで聞く世界 香道

36 …… 花が香る ハーブ

● お茶が香る

60 …… お抹茶を味わう

62 …… 紅茶はいかが？

64 …… 季節を味わう 健康茶



● 歴史とお寺の旅

67……韓国―安東を訪ねて

75……親鸞聖人関東ご旧跡を旅して

78……親鸞聖人ゆかりのお寺

―真宗教団連合加盟宗派―



● み教えを聞いて

54……アリと人間とののさまの世界―福間欣嗣

あなたのための浄土真宗入門講座

82……満たされたいのちの喜び―福間真也

〈マンガ〉

58・96……阿弥陀さまの願い・凡夫の願い(1)(2)

画・広中建次

66・94……仏教豆知識(1)(2)

〈短歌・俳句〉

90……香りを詠む―撰・評 岩城久治



● リラックス

40……ちよつと一息 EXERCISE

